

すいか



主な加害種: カラス、アライグマ、タヌキ、ハクビシン



加害種: ハシブトガラス

果皮についているV字型の切り裂きが太くて明瞭。嘴を突き刺した痕(果皮についたU字状の線に見える部分)も見られる。

撮影: 吉田



加害種: カラス

果皮についているV字型の切り裂きは上の写真ほど明瞭ではないが、果肉には嘴を差し込んで食べた深い食痕が見られ、カラスによる食害の特徴を示す。

撮影: 益子



加害種: カラス

小玉すいかが大きくえぐられていた。果肉には嘴でついでばんだ跡が多数見られる。

撮影: 佐伯



加害種: カラス

果皮に2対の突き跡があり、カラスが嘴で突いたと考えられる。未熟果のためか、果肉に到達する傷はなく、食べられてはいなかった。

撮影: 益子



加害種: アライグマ

アライグマは直径 5-6cmの穴を開け、前肢を使って中身をくり抜くように食べる。

撮影: 古谷益朗



加害種: タヌキ

タヌキは主に口を使って食害する。大玉のすいかはサイズ的に噛めないかもしれない。カラスやアライグマの開けた穴から食べ進み、写真のような状態になることが多いと考えられる。

撮影: 古谷益朗



加害種: ハクビシン

ハクビシンは顔を突っ込んで中身を食べるため、穴が大きくなる。

撮影: 古谷益朗



加害種: アナグマ

果皮の表面に無数の引っ掻き痕があった。周辺のカメラ等で確認されたのはアナグマのみだったことから、アナグマの長い爪で引っ掻かれたものと考えられる。このすいかは果肉に到達する傷はなく、食べられてはいなかった。

撮影: 上田

すいか食害写真(撮影:古谷益朗)



アライグマによる食痕:

カラスによる食痕に似る場合もあるが、よく見るとクチバシの痕跡とは異なる。爪の痕がつくことが多い。